

令和6年度 事業報告書

I. 法人の概要

1. 基本情報

(1) 法人の名称

学校法人 山野学苑

(2) 主たる事務所の住所等

住所：〒151-8539 東京都渋谷区代々木 1-53-1

電話番号：03-3379-0111 FAX 番号：03-3370-0008

ホームページ：<https://www.yamano.jp/>

2. 建学の精神と教育理念

山野学苑は、初代山野愛子校長が提唱した「美道 5 大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）」を基に美容理論の追及、美容に関する知識・技能の教授・研究を通して社会や美容界で広く貢献のできるリーダーを育成するとともに、国際社会で活躍のできる人材の育成を目標とする。

3. 山野学苑の沿革

- | | | | |
|------|----------|------|---|
| 1934 | (昭和9) 年 | 4 月 | 東京日本橋に山野美容講習所設立 |
| 1948 | (昭和23) 年 | 9 月 | 国際山野高等美容学院設立認可 |
| 1949 | (昭和24) | 12 月 | 財団法人山野高等美容学校設置者変更、設立認可
(理事長に山野治一就任、校長に山野愛子就任)
美容師養成施設として厚生大臣の指定を受ける |
| 1954 | (昭和29) 年 | 12 月 | 学校法人山野高等美容学校設置者変更認可
(学校教育法第8条第3項準用の同法第4条の規定) |
| 1973 | (昭和48) 年 | 12 月 | 学校法人山野学苑に法人名称を変更 |
| 1977 | (昭和52) 年 | 2 月 | 学校法人山野学苑山野美容専門学校設置認可 |
| 1991 | (平成3) 年 | 12 月 | 山野美容芸術短期大学設置認可 (文部大臣) |
| 1992 | (平成4) 年 | 4 月 | 山野美容芸術短期大学開設 美容芸術学科設置 |
| 1995 | (平成7) 年 | 8 月 | (山野美容芸術短期大学学長に山野正義就任)
(山野美容専門学校校長に山野愛子ジェーン就任) |
| | | 12 月 | 山野美容芸術短期大学 美容保健学科設置認可 |
| 1996 | (平成8) 年 | 4 月 | 山野美容芸術短期大学 美容保健学科設置開設 |
| 1997 | (平成9) 年 | 10 月 | 山野日本語学校設置認可 |
| 1998 | (平成10) 年 | 4 月 | 山野美容芸術短期大学 美容保健学科 |

- (美容師養成施設に指定)
- 山野日本語学校開設
- (山野日本語学校校長に山野正義就任)
- 12月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科設置認可
- (介護福祉士養成施設に指定)
- 1999 (平成11)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科設置開設
- 2002 (平成14)年 12月 山野医療専門学校認可
- 2003 (平成15)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科
- (美容師養成施設に指定)
- 山野医療専門学校開設
- (柔道整復師養成施設に指定)
- (校長に山野正義就任)
- 2004 (平成16)年 4月 山野美容芸術短期大学 専攻科芸術専攻・社会福祉専攻開設
- 2005 (平成17)年 2月 山野美容芸術短期大学 専攻科芸術専攻大学評価・学位授与機構
認定
- 2007 (平成19)年 4月 山野美容専門学校校舎 M. YAMANO TOWER 竣工
- 2009 (平成21)年 4月 山野日本語学校大学 進学1年コース設置
- 2010 (平成22)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科設置認可
- 山野美容芸術短期大学 美容総合学科設置認可に伴う美容芸術学科・
美容保健学科・美容福祉学科募集停止
- 2011 (平成23)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容芸術学科・美容保健学科・美容
福祉学科を改組
- 美容総合学科(美容デザイン専攻・総合エステティック専攻・
国際美容コミュニケーション専攻)開設
- 2012 (平成24)年 4月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科現代美容福祉専攻開設
- 2013 (平成25)年 4月 学校法人山野学苑総長に山野正義就任
- 学校法人山野学苑理事長に山野愛子ジェーン就任
- 山野美容芸術短期大学学長に山野愛子ジェーン就任
- 山野日本語学校校長に山野一美ティナ就任
- 2014 (平成26)年 3月 山野美容芸術短期大学 日本語別科開設
- 4月 山野美容芸術短期大学 美容総合学科 現代美容福祉専攻募集停止
- 2015 (平成27)年 2月 山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より

			「職業実践専門課程」に認定
	4 月	山野美容芸術短期大学 美容総合学科	総合エステティック専攻を エステティック専攻に名称変更
2017 (平成29) 年	4 月	山野美容専門学校	専門課程、文部科学大臣より 「職業実践専門課程」認定取り消し
2018 (平成30) 年	3 月	山野医療専門学校	募集休止
2020 (令和2) 年	3 月	山野医療専門学校	閉校 山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より 「職業実践専門課程」に認定
	8 月	山野医療専門学校	廃止届提出
2021 (令和3) 年	4 月	山野美容芸術短期大学 美容総合学科	(専攻課程を廃止し、教育課程の統合に よる学科改組) 美容デザイン専攻、エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻の 募集停止
2022 (令和4) 年	4 月	山野美容専門学校	高等課程 募集停止
2023 (令和5) 年	3 月	山野日本語学校	大学進学1年コース廃止
2023 (令和5) 年	3 月	山野美容芸術短期大学 美容総合学科	専攻課程の廃止 (美容デザイン専攻、 エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻)
2023 (令和5) 年	11 月	山野美容専門学校	高等課程 廃止

4. 設置する学校

山野美容芸術短期大学	美容総合学科 専攻科 芸術専攻 日本語別科 (募集停止)
山野美容専門学校	美容専門課程 美容通信課程
山野日本語学校	大学進学準備教育 1 年コース 大学進学準備教育 1 年半コース

5. 学校等の学生数の状況

(令和6年5月1日現在)

学校名			入学定員	入学者数 R6. 5. 1	収容定員 R6. 5. 1	現員数 R6. 5. 1	前年度 現員数 R5. 5. 1	新年度 現員数 R7. 5. 1
山野美容 芸術短期 大学	美容総合学科		245	192	490	369	372	385
	専攻科芸術専攻		40	0	80	3	0	11
	日本語別科(募集停止)		60	0	60	0	0	0
山野美容 専門学校	美容専門課程		600	469	1,200	912	903	889
	美容通信課程		600	215	1,800	988	959	1,012
山野 日本語 学校	大学進学 準備教育	1年 コース	200	166	200	166	162	184
	同上	1年半 コース	80	102	160	88	129	95

(注) 山野日本語学校大学進学準備教育一年半コースは 10 月入学の為、入学者数は R5. 10. 1 現在の人数

(注) 山野美容専門学校通信課程は、4 月・10 月入学の為、上記入学者数は R6. 4. 1 入学者を記載

6. 収容定員の充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
山野美容芸術短期大学	0.75	0.64	0.71	0.76	0.75
山野美容専門学校					
美容専門課程	0.66	0.59	0.65	0.76	0.76
美容通信課程	0.49	0.46	0.47	0.54	0.54
山野日本語学校	0.4	0.4	0.48	0.89	0.71

7. 役員の概要 理事

理事の定数5名

(令和6年5月1日現在)

	氏 名	就任年月日	常勤／ 非常勤	主 な 現 職 等
1	山野愛子ジェーン	令和6. 1. 18	常 勤	(学) 山野学苑理事長・山野美容専門学校校長・ 山野日本語学校長 (財) 国際美容協会理事長・山野流着装宗家
2	木村 康一	令和6. 1. 18	常 勤	山野美容芸術短期大学学長・教授
3	植村 公一	令和6. 1. 18	非常勤	国立大学法人東京農工大学理事、 Indexグループ代表取締役社長
4	清水 雅彦	令和6. 1. 18	非常勤	横浜商科大学理事長
5	藤本 欣伸	令和6. 1. 18	非常勤	西村あさひ法律事務所・外国法共同事業パートナー
退任	山野愛子ジェーン	令和7. 3. 31辞任		

監事の定数2名

(令和6年5月1日現在)

	氏 名	就任年月日	常勤／ 非常勤	主 な 現 職 等
1	黒石 匡昭	令和6. 1. 18	非常勤	PA パートナース株式会社代表取締役
2	村山 利栄	令和6. 2. 6	非常勤	インフォア・ホールディングス株式会社 社外取締役、株式会社ライス カレー社外取締役、株式会社 True Data 社外取締役(監査 等委員)、前田建設工業株式会社 非業務執行取締役、 国立健康危機管理研究機構(JIHS) 理事
退任	—	—		

8. 評議員の概要

評議員の定数11名

(令和6年5月1日現在)

	氏 名	就任年月日	主 な 現 職 等
1	山野愛子ジェーン	令和6. 1. 18	(学) 山野学苑理事長・山野美容専門学校校長・山野日本語学校長 (財) 国際美容協会理事長・山野流着装宗家
2	茂木 勝彦	令和6. 1. 18	学校法人山野学苑 法人事務局長代理
3	河崎 峰子	令和6. 1. 18	山野美容芸術短期大学副学長・教授
4	青山 正幸	令和6. 1. 18	ヘアサロン「ACQUA」代表・株式会社アクアアーティストィックアソシエーションInc. Co., Ltd. 代表取締役
5	小野田 光伸	令和6. 1. 18	ヘアサロン「美遊」オーナー・中落合店長、 山野美容芸術短期大学特任教授
6	五十嵐 メルビン	令和6. 1. 18	グローバルソリューションコンサルティング株式会社監督
7	小口 光	令和6. 1. 18	西村あさひ法律事務所・外国法共同事業パートナー
8	雑賀 英敏	令和6. 1. 18	株式会社 トニーアンドガイジャパン代表取締役
9	佐野 一郎	令和6. 1. 18	特定非営利活動法人じぶん未来クラブ代表
10	廣岡 敏行	令和6. 1. 18	国際基督教大学 (ICU) 理事・評議員
11	山北 宣久	令和6. 1. 18	ヤマザキ学園 常務理事・ヤマザキ動物看護専門職短期大学学長
退任	—	—	

9. 教職員の概要

(令和6年5月1日現在)

	本務人数	兼務人数	合計	平均年齢 (本務)	平均年齢 (兼務)	平均年齢 (合計)
山野美容芸術短期大学	40	92	132	47. 5	50. 1	48. 8
山野美容専門学校	61	4	65	48. 6	66. 5	57. 6
山野日本語学校	12	26	38	40. 2	53. 0	46. 6
法人事務局	17	0	17	53. 4	—	53. 4

Ⅱ. 事業の概要

1. 主な教育・研究の概要

山野学苑は、昭和9年に東京・日本橋に美容師養成事業の端緒となる山野美容講習所を創立、昭和29年には学校法人山野高等美容学校を設立し、以来、美道5大原則を教育理念とし、国内最大級の美容学校である山野美容専門学校、我が国初となる美容の高等教育機関である山野美容芸術短期大学を設立、更には山野日本語学校を開設し、多様な社会に適応し主体的に参画のできる資質能力を有する人材の育成を追求して今日に至っている。

各学校からの報告は以下の通りとする。

《山野美容芸術短期大学》

i. 全般

1. 建学の精神を具現化する学科改組の取り組みの更なる向上・充実に向けた点検・評価

持続可能な大学運営を行っていくことを目的に、令和3年度（2021年度）に専攻を統合(学科改組)し、令和4年度末で学科改組が完成し、今年度は改組から4年目が終了した。

令和5年9月に大学・短期大学基準協会による認証評価を受けた。結果は令和6年3月8日付けで、「不適格」の判定を受けている。具体的な機関別評価では、基準Ⅰ建学の精神と教育の効果、基準Ⅱ教育課程と学生支援、基準Ⅲ教育資源と財的資源は適格とされ、基準Ⅳリーダーシップとガバナンスは不適格であった。

指摘を受けた課題は改善に取り組み、成果が出ていると評価できる内容は、更なる向上を目指した。令和6年度の取り組みとしては、規程の見直しを行い、法令遵守の観点、実際の運用に則しているか否かを点検し、いくつかの改訂を実行した。次年度以降も改善に向けての点検を実施して行く。

建学の精神の「美道を追求し、実践すること」を具現化する取り組みとして、学内外にHP・科目・講話・パンフレット・オープンキャンパス等で示し、3ポリシーに基づいた教育を実践した。また入学時のオリエンテーションでは、理事長並びに学長の講話から建学の精神を学ぶ機会の創出をした。改組の教育体系として「学びの広がり」と「学びの深さ」といった点では、7つの学びの領域を示したうえで、各授業科目とディプロマポリシーとの関連を授業科目担当教員が理解することで、ディプロマポリシーを意識した授業展開をすることができた。授業アンケートから鑑みると、ディプロマポリシーの要素が授業科目から培われ、身につけていることがわかった。また授業科目として「美道論」の授業を展開させ、授業科目からも建学の精神を理解する機会を創出することができた。学生の理解度は授業アンケートからも検証されている。また、卒業時の表彰として今年度も「美道賞」を設け、授与している。「美道賞」は、2年間で建学の精神を深く理解し、自ら実践できている学生に与えるものである。選考においては、卒業する対象者に対して、各2年次の学生が建学の精神を理解したうえで他薦をし、その候補者の中から選ばれる。この選考方法も、建学の精神を深く理解するための取り組みとしている。

教学マネジメントを通して、学生の満足度について卒業時にアンケートを実施した結果は、以下の通りである。短大での学びの項目では、肯定的評価(1～3)の割合は 87.2%に達している。教員の評価は、肯定的評価(1～3)の割合は 96.6%に達しており、極めて高い評価と言える。

事務職員については、肯定的評価(1～3)の割合は 80.3%で、概ね良好な水準であった。施設・設備については、不満足要素として全体の 60.7%の意見が寄せられている。具体的には Wifi の不具合とトイレについてであった。令和 6 年度は、トイレの改修に着手したものの、引き続き改善が必要である。

財務資源の観点では、令和 6 年度入学者は 193 名、専攻科 3 名、合計 196 名のところ、令和 7 年度は、本科 189 名、専攻科 8 名、合計 197 名となった。入学者数は、おおよそ横ばいの推移でとどまっている。次年度の学生募集は、本科 210 名、専攻科 10 名を目指し、更なる財務資源の確保をしていく。

専攻科においては、令和 7 年度に改組のカリキュラムが完成する。令和 6 年度と比較すると 2.67 倍の入学予定者となった。また改組 1 年目として、学生の声から満足度も高いことが理解できた。加えて専攻科の学生が直接本科の全学生に、専攻科の学びを伝える機会を設けたことで、入学希望者が増えたことも要因の一つと考える。「これまで学んできた美に関する知識や技能をプロデュースの視点でとらえ、新しいアートビジネスを生み出せる人を輩出すること」をコンセプトに、更なる専攻科の運営を活性化し、入学者の増加を目指していきたい。

2. 教学運営

新型コロナウイルス感染症が発生する以前の体制に戻し、対面授業の実施による教育活動の活性化を目指した。

(1) 教育

学習成果カルテを「ゼミ」授業にて学生全員に配布し、ゼミ担当教員の確認のもと全学生が記入した。卒業認定・学位授与の方針に応じた達成度を教員と学生が共有し、科目毎の振り返りを実施した。教員が本カルテにコメントを記入してフィードバックを行うとともに、個人面談にて DP の達成度を確認した。

「ゼミ」授業ではコースや学年が異なる学生同士の交流機会を設けて学生が学習成果の獲得を認識できる場を創出した。

学習成果は、I R 活動による学習時間・学習行動の実態把握、授業アンケートなどにより量的・質的に把握した。分析の結果、良好な成果であったが、課題が発見された際には、科目担当教員と連携し修正・改善を図った。

外部の標準化されたアセスメント・テスト (PROG) を在学中 3 回実施した。ディプロマポリシー評価表 (ルーブリック) と併せてきめ細やかな学習指導を実施した。

(2) カリキュラム

授業アンケート結果と各科目のシラバスを参考にしながら、カリキュラム・マップにおける DP の修正を行った。

(3) 授業方法

学生に対して授業アンケートを年間で2回実施した。分析の結果、学生の満足度は概ね高かったことを確認した。授業の教授法の改善及び習得を目指し、前期・後期において教職員による授業参観を各2週間設けた。その結果専任・非常勤にとらわれず互いにより刺激となり、教授法の質の向上の一助となった。

この他に、本学の理念を実現するための授業スタンスなどを定めたインストラクションスタンダードを非常勤講師会で再度確認を行い、教職員全員に周知徹底を行った。

(4) 教員評価

教員評価に当たり、本学で定める評価指標に沿って、本人評価、上長評価、本人へのフィードバックの手順を踏み、公正な評価を行った。

(5) 入試

オープンキャンパスにおいて、在学生を主役に据えたことで、受験生の関心を高めることができた。また、在学生自身もリーダーシップの発揮やコミュニケーション能力の更なる向上を目指し、オープンキャンパススタッフ（学生のみ）に加入し、チームビルディングを行った。そのことにより、コースや学年を超えるコミュニケーションがとれるようになり、学生の更なる主体的行動力（DP2）の習得に寄与できていた。

(6) 学生支援

学生支援としては、ゼミを中心に学生への丁寧な指導を徹底した。さらに、保健管理室と共に学生相談室を設け、看護師の他にスクールカウンセラー、精神科医が学生の様々な相談にのっている。

(7) その他

① 令和5年度認証評価の際指摘された事項への対応は以下のとおり。

○学生に対する懲戒（退学、停学及び訓告の処分）の手続きに関する規程を定めていない。

➡学生に対する懲戒規程は、令和6年1月の山野美容芸術短期大学の教授会の議を経て、1月25日付で学長が決裁。令和6年2月1日から施行している。

○理事及び評議員が寄附行為に定められた定数を満たしていない。

➡理事及び評議員の定数変更を含む寄附行為変更が令和6年1月18日付け認可され、同日付で、旧理事・評議員の辞任、新理事・評議員の就任を決議した。

現在は、理事・評議員共に定数を満たしている。

○理事会及び評議員会の議事録に会議で使用した資料が添付されていない。

➡理事会・評議員会の議事録はすべての会議資料を添付し、袋綴じ、割印して保管している。

○理事会及び評議員会に付議された事項について書面をもってあらかじめ意思表示した者の意思表示書が保存されていない会が複数回ある。

➡理事会及び評議員会における、すべての意思表示書、議事録を保管している。

○実際に開催していない理事会及び評議員会の議事録がある。また学校法人資産の私的利用、上記の実際に開催していない理事会及び評議員会の議事録による寄附行為変更認可申請を行うなど法人の内部統制の体制及びガバナンス機能に大きな問題がある。

➡内部統制及びガバナンス機能の強化策として、コンプライアンス委員会を設置した。コンプライアンス委員会は、理事会の直轄組織とし、学苑全体のコンプライアンス上の様々な事項について、継続的に確認、検討、モニタリング及び助言を行った。また、コンプライアンス委員は理事会及び評議員会にオブザーバーとして出席し、議事内容が正確に議事録に反映されているかの確認を行い、定期的に理事会・評議員会の議事録ファイルを確認し開催実績と議事録の照合を行っている。

② 高等教育の修学支援新制度については、引続き対象機関として認定された。

ii. 細部

1. 教育内容

(1) 美容総合学科

建学の精神である「美道教育」を土台に、各科目や課外活動から DP を習得すべく取り組みを行った。DP の理解と実践を促すため、ゼミ活動を各ゼミ担当教員が積極的に行った。後期の最終ゼミは 1・2 年生合同で行い、2 年生のゼミの代表者が 2 年間の DP の習得の振り返りについてプレゼンテーションを行い、その感想を全学生が提出した。そのことで、2 年生は 2 年間の DP 習得の振り返りを可能とし、1 年生は今後の学習成果獲得に向けてのモチベーション向上と学習イメージの構築に繋がった。

各種課外活動は学生が主導的に実施し、学外から高い評価を得た。

図書館の閲覧室に設置しているリラクゼーションルームは、年間を通して多くの学生が利用し、「お昼休みにリフレッシュできる」「図書館に足を運ぶ機会が増えた」等の声が寄せられ、学生の満足度向上の一助となった。

本学は、山野インストラクションスタンダードに沿った教学を重視しているが、授業アンケートの実施と分析により、各科目における DP を学生が概ね理解していることを確認した。

学生個々に寄り添ったサポートを推進すべく、適宜学生との面談を実施した。学習成果についてはゼミ担当教員が、進路についてはキャリア支援センター職員が専門知識を持って面談に当たった。

(2) 専攻科芸術専攻

令和6年度は、専攻科芸術専攻がリニューアルしスタートした。(独立行政法人学位授与機構の認可) 令和5年度にカリキュラムの改訂並びに学生募集を実施した結果、入学者は内部進学の名となった。

芸術専攻の教育目標は、「美容技術やデザイン力を生かす創造力や表現力を身につけた「美容芸術」の社会実装に貢献できる人材の育成」であり、「美」に関する知識や技能をプロデュースの視点でとらえ、新しいアートビジネスを生み出せる人材の育成を目指している。また、学内の既存のリソース(施設設備、人的資源)の有効活用による教育活動であり、財務の健全化にも資すると見込んでいる。

科目は次の通り3領域となっている。■美容芸術表現領域の科目「写真表現演習」「空間環境デザイン」「ヘアデザイン」など ■美容芸術理論領域の科目「マテリアル研究」「ファッション文化研究」「色彩表現研究」など ■社会実装領域の科目「アートマネジメント」「美容芸術研究」「ビューティープロモーション」など。

学習成果では、DP1(美容芸術) DP2(社会実装)を基に学習成果カルテを作成し、前期終了時と後期終了時に学生がカルテ記入を行なった結果、各学生の成長を確認できた。

また、キャリア支援では美容総合学科よりも進路の幅が広がることを踏まえて、2ヶ月に1回程度、キャリア担当が学生と個別面談を実施した。

2. 卒業後の進路

(1) 美容師免許取得コース

区分	人数	割合
美容室	50	50.5%
化粧品	5	5.1%
アイラッシュ	5	5.1%
ブライダル	4	4.0%
エステ	2	2.0%
ネイル	3	3.0%
アパレル	2	2.0%
その他業界	14	14.1%
進学	11	11.1%
留学	0	0.0%
上記以外進路	3	3.0%
計	99	100%

(2) インナービューティコース

区分	人数	割合
エステ	10	23.3%

化粧品	9	20.9%
ブライダル	2	4.7%
その他業界	12	27.9%
進学	6	14.0%
上記以外進路	4	9.3%
計	43	100%

(3) グローバルキャリアビューティビジネスコース

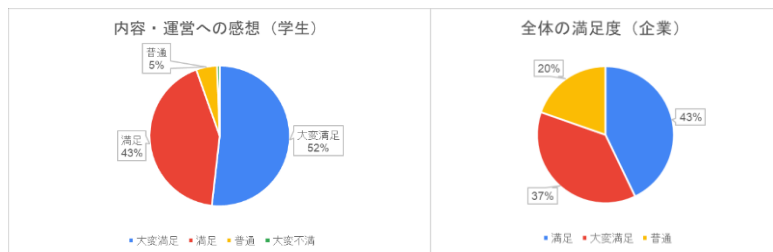
区分	人数	割合
エステ	2	18.2%
化粧品	1	9.1%
ネイル	0	0.0%
アパレル	0	0.0%
その他業界	5	45.5%
進学	3	27.3%
上記以外	0	0.0%
計	11	100%

3. キャリアサポート

(1) キャリア支援センター

① 1年生向け就職ガイダンスの開催

初めての試みとして、11月に外部業者主催でキャリアデザインの授業時間を使用し八王子日本閣にて就職ガイダンスを開催した。参加企業75社、本学からは167名が参加し、1人3社の目安で企業説明を受けた。アンケート結果を分析すると、学生、企業ともに満足度が高く、当初の目的を達することができたが、一方で、進行や動線などに不満のコメントが見受けられたことから、次年度開催時はそれらの点の改善を図ってゆく。



② 就職活動早期化への対応

昨今の就職活動の前倒し傾向に対応すべく、例年1月に開催していた就活キックオフイベントを10月に開催し、学生に早期の就職活動開始を促すようにした。これにより年明けから始まる化粧品会社の採用募集に余裕をもって取り組むことができるようになった。

③ キャリア支援センターの環境改善

学生が気軽に相談に来ることができる環境整備を実施した。これにより個別面談や履歴書の添削などを行いやすい環境を構築した。

④ 進学（４大編入・専攻科）実績

４年制大学には８名（内指定校推薦編入：４名）が編入学した。本学専攻科には８名が進学した。

（２） インターンシップ

本学主催のリアルインターンシップを実施した。

① 企業訪問型インターンシップ

8/22～8/30と学生全員が参加できる期間に短期集中して実施

基本３日間短期インターンシップに限定して実施し、受入れ企業から高い評価を得た。

【実績】・協力企業：27社

- ・参加者：81名（対象学生の約40%が参加し、前年より参加率が7%増加）
- ・参加学生には、参加の目標確認、動機付け、マナー確認、参加意欲確認など学校の代表としての意識付けを図るために事前面談を行った。

② 自主開拓インターンシップの実施

学生自らがインターンシップ先企業を開拓し自主的にインターンシップを行う取り組みを実施した。

【実績】・参加企業：6社

- ・参加者：6名

【成果】・進路の様々な可能性を探索

- ・企業実務を体験することで就活や就業を自分事として意識化
- ・インターンシップ先での社会人並びに他大学学生との交流による一般成人としての見識の深化

4. 正課外活動・地域連携等

令和６年度は、正課外活動・地域連携は本学の目指す教育との関連が強いとの認識のもと、申請窓口を教務委員会に一本化し、昨年と同様課外活動の可視化を行った。特筆する活動としては、インターンシップやオープンキャンパス活動の他、学外イベント（ローズプロジェクト、ICTを活用した世代間交流など）、課外プロジェクト（2024 Miss Universe Japanの運営アシスタントや企業訪問プロジェクト、地域貢献プロジェクトなど）や課外講座（企業を訪問しての講座、ファッションショーの見学）など、総数69の課外活動申請があり、延べ500名を超える学生が参加した。すべての活動をDPの観点から計画する活動をしている。

令和６年度においてDP1：知識技能 DP2：主体的行動力 DP3：課題解決力 DP4：多様な価値観や考え方を理解し受け入れる力養成に注力し、最終目標DP6：美しく生きる力を実践できる能力の育成寄与に貢献している。

5. 学生募集

令和7年度入学者獲得のため、オープンキャンパスを在学生在が主体となる企画構成とし、来校型21回、オンライン型11回、全32回（令和6年1月～12月）開催した。その他、高校訪問、校内・会場進学ガイダンス及びWebリスティング広告、SNS等を活用したPR活動を実施。又、美道をベースとした学びの内容をWebサイトや学校案内を通じて周知を図り、ブランディングの確立を目指した。令和7年度の入学者数は次のとおりである。

（1）本科（令和7年度入学者）

	入学者	入学定員	充足率
美容総合学科	189名	245名	77.1%

（2）専攻科

令和7年度入学者8名

（3）日本語別科

募集停止

6. 生涯学習等

生涯学習講座としては、地域にある大学コンソーシアムに参画し、八王子市主催の「いちょう塾」において、建学の精神にある美道を軸に「美齡講座」を開講した。提供講座は合計13講座。受講生は99人だった。

7. 防災・危機管理

令和6年11月20日、緊急地震速報発報後、地震に伴う火災が食堂で発生したとの想定のもと、避難訓練を実施した。参加者は当日学内にいた学生273名と教職員33名の合計306名。雨天のため、避難場所をグラウンドからメモリアルホールに変更したが、避難誘導は概ねスムーズに実施できた。今後も学生、教職員の安全確保の観点から避難訓練を継続する所存。

8. 外部資金の獲得

高等教育を担う本学は、学生への教育は当然として、研究活動への注力も大きな任務である。財務的な制約がある環境下、外部からの研究資金獲得は非常に重要である。

令和6年度の科学研究費は研究代表者1件で直接研究費¥1,500千円、分担者で直接研究費¥300千円（前年度から繰越150千円＋新規150千円）であった。引き続き科学研究費獲得に向けて、教員への支援を継続する。

《山野美容専門学校》

1. 教育目標（ミッション・ステートメント）

山野美容専門学校は、「髪」「顔」「装い」「精神美」「健康美」の「美道五大原則」を基に、美容の理論と実践を通して教育の向上をめざし、常に変わりゆく多様な文化のなか、学生を美容界のリーダーに育てるとともに、生涯の学びへと導くことを目標とする。

2. ディプロマポリシー

美容師免許取得に達する知識・技術を修得するとともに「髪・顔・装い・精神美・健康美」のトータルビューティアーを学び、豊かな感性と優れた国際感覚を身につける。

3. アドミッションポリシー

- (1) 美容界でプロとして活躍したいという目的意識の明確な方
- (2) 健康で明るく、前向きでチャレンジ精神のある方
- (3) 思いやる気持ちがあり、協調性のある方

4. カリキュラムの改革について

- (1) 令和6年度からカリキュラムを刷新した。一つには美容技術の実習授業で様々な美容室からスタイリストを含めスタッフを招聘し、現場のトレンドを取り入れた技術を指導してもらう回を設けている。

令和6年度では1年生のみがこの新カリキュラムの履修者であったため、該当する科目は、ヘアカラーのみであるが、令和7年度には2年生の発展授業（テクニカル授業）においてカット、ヘアメイク、ブライダル科目で招聘美容師による授業を行う。就職意識の向上や退学率の減少につながることを期待している。

- (2) キャリアデザインの授業を新規開講した。入学直後に自己分析、グループワークを通じて2年間の学校生活が卒業後の社会人生活と連続しているという意識を高めることができたと思われる。キャリアデザイン授業の成果が就職率の向上や退職率の低下につながるかどうかは今後の分析を待たねばならないが、少なくとも1年生の間の退学率は従来に比べて大幅に減少しており、効果が確認された。

5. 学生の状況（人）（令和6年5月1日現在）

課程/年度	入学定員	1年	2年	3年	合計
専門課程	600	480	432	—	912
通信課程	600				
	4月 320 10月 280	333	342	313	988
計	1200	813	774	313	1900

6. 入学者数（人）

課程/年度	令和6年度			令和5年度		
	4月	10月	計	4月	10月	計
専門課程	469	—	469	471	—	471
通信課程	215	133	348	257	122	379
計	684	133	817	728	122	850

7. 卒業者数（人）

課程 年度	令和6年度			令和5年度		
	9月	3月	計	9月	3月	計
専門課程	22	394	416	8	379	387
通信課程	79	128	207	75	103	178
計	101	522	623	83	482	565

8. 教育成果向上のための具体的な取り組み

- (1) 教員の教育技術向上のため、各種資格取得を支援した。
- (2) 担任ユニット制を充実して学生生活指導を含め指導体制の強化を図った。
- (3) 通信課程学生の美容師国家試験合格率向上のため、スクーリングにおける授業の改善を図った。

9. 学生支援について

- (1) 修学支援新制度機関認定校として質の高い教育を継続維持した。
- (2) 教員（クラス担任）、保健相談員（保健師）及びスクールカウンセラーとの連携を図りメンタルヘルス（心の悩み）への対応を推進した。
- (3) 各種証明書発行手数料等の支払いに電子決済システム（PAYGENT）の導入して、諸手続きの軽便化図った。
- (4) パソコンのダッシュボード機能（リアルタイムでデータが更新されるツール）を利用して学生及びその保護者が Web サイトを通じてアクセスし、個人の成績評価を確認することを可能にして、円滑な学生生活支援を推進した。

10. 美容師国家試験合格率について

令和6年度における美容師国家試験合格率は、合計92.0%で昨年同様、全国平均を大きく上回る結果となった。引き続き全員合格を目指して、国家試験対策を推進する。

令和6年度（新卒者のみ計上）

	専門課程			通信課程			計		
	受検	合格	率(%)	受検	合格	率(%)	受検	合格	率(%)
50回	20	16	80.0	62	52	83.9	82	68	81.9
51回	397	385	97.0	94	74	78.7	491	459	93.5

計	417	401	96.2	156	126	80.8	573	527	92.0
---	-----	-----	------	-----	-----	------	-----	-----	------

令和5年度（新卒者のみ計上）

	専門課程			通信課程			計		
	受検	合格	率(%)	受検	合格	率(%)	受検	合格	率(%)
48回	6	5	83.3	57	52	91.2	63	57	90.5
49回	379	358	94.5	81	73	90.1	460	431	93.7
計	385	363	94.3	138	125	90.6	523	488	93.3

1 1. 各種検定試験の合格状況について

各種検定試験に挑戦して資格を取得することは、単なるスキルの証明にとどまらず、キャリアアップ、社会的信頼性の獲得など、さまざまな面で有益な影響を与えるとともに具体的な目標を設定して達成する手段は、学修に対する姿勢に非常に意義深いものであることから積極的な挑戦を指導している。令和6年度の成果については、次のとおりである。

No	資格名	備考
1	JMA 日本メイクアップ技術検定試験2級	一般社団法人日本メイクアップ技術検定協会（JMA）
2	JMA 日本メイクアップ技術検定試験3級	一般社団法人日本メイクアップ技術検定協会（JMA）
3	JNA ジェルネイル技能検定試験初級	NPO 法人日本ネイリスト協会（JNA）
4	JNEC ネイリスト技能検定試験2級	公益財団法人日本ネイリスト検定試験センター（JNEC）
5	JNEC ネイリスト技能検定試験3級	公益財団法人日本ネイリスト検定試験センター（JNEC）
6	ブライダルビューティプランナー	一般社団法人全日本ブライダル協会（AJBA）
7	色彩検定1級	公益社団法人色彩検定協会（AFT）
8	色彩検定2級	公益社団法人色彩検定協会（AFT）
9	色彩検定3級	公益社団法人色彩検定協会（AFT）
10	茶道裏千家 初級	一般社団法人 今日庵
11	JLMA 全国まつ毛安全技能検定試験 BASIC	一般社団法人 日本ラッシュマイスター協会（JLMA）
12	JLMA ラッシュリスト検定 BASIC	一般社団法人 日本ラッシュマイスター協会（JLMA）
13	資格認定5STAR 技能評価試験 Lebel2 Basic	一般社団法人日本ラッシュアーティスト協会（JLA）
14	資格認定5STAR 技能評価試験 Lebel2 intermediate	一般社団法人日本ラッシュアーティスト協会（JLA）
15	美容着付師	一般財団法人国際美容協会
16	サービス接客検定3級	公益財団法人 実務技能検定協会
17	フォーマルスペシャリスト検定準2級 （ブロンズライセンス）認定試験	一般社団法人 日本フォーマル協会
18	日本化粧品検定3級	一般社団法人日本化粧品検定協会
19	福祉美容師	一般社団法人 日本美容福祉学会

1 2. 主要コンテスト等入賞状況について

コンテストに参加することで、スキル向上に加え他者との違いや自分の強みを再確認するとともにコンテストに参加すること自体が、キャリアや人生における大きな経験と

なり、成長と新たな道を切り開くきっかけとなることから積極的な参加を指導している。
令和6年度に学生が参加した主なコンテストの成果は、次のとおりである。

コンテスト・大会等名	開催日	入賞状況
THDC コンクール	2024. 4. 15	フリーデザインスタイル（カット） 優勝・準優勝・3位
		ロッドワインディング 優勝
2024 スタイリングコレクション東日本大会	2024. 8. 27	ワインディング国試スタイル 優勝・3位
第16回全国理容美容 学生技術大会 東京地区学生技術大会	2024. 9. 6	ワインディングオールパーパス部門 全国大会2名選抜
		カットグラデーションボブ部門 全国大会1名選抜
		アップスタイル部門 全国大会2名選抜
		ヘアデザイン画部門 全国大会1名選抜
第72回芸術祭全国大会	2024. 10. 22	ワインディングロッド巻きの部 優秀技能賞・審査員奨励賞
		カットスタイリングの部 優秀技能賞・美道アンバサダー賞
		カットスタイリングの部 審査員奨励賞
第16回全国理容美容 学生技術大会	2024. 10. 30	アップスタイル部門 金賞（1位）
		ワインディングオールパーパス部門 銀賞（2位）
2024JUHA JAPON FESTIVAL	2024. 11. 12	カット ゴールド・シルバー・ブロンズ
		アップ ゴールド・シルバー
		デッサン ゴールド・シルバー
		WD1年 ゴールド
		WD2年 ゴールド
2024 北村杯	2024. 11. 12	WD部門 優秀賞・準優秀賞・3位
2024Power Of Beauty	2024. 11. 19	WD部門 準優勝
2024IBAJAPANCUP	2024. 11. 25	1回戦： 2位 敢闘賞
		2回戦： 1位 2位 敢闘賞
		3回戦： 1位 2位
全国美容週間マスターズ カップ	2024. 11. 26	ワインディング2年生部門 優勝・準優勝
		ワインディング1年生部門 3位
		カットフリースタイル 優勝・準優勝
		アップスタイル 優勝・準優勝・3位
DHK FESTIVAL	2025. 3. 12	ワインディング 準優勝 3位 優秀賞
		カットフリーデザイン 優勝・準優勝・3位・優秀賞

13. 学生募集活動について

令和6年度における活動の重点項目を次のとおり定め、諸活動を推進した。

- (1) オープンキャンパスに自主的な学生の参加者を募りスタッフとして運営する。
- (2) 学生募集に係る情報を発信するために公式ホームページ、YouTube、Instagram 及び TikTok 等、Web サイト、SNS を有効に活用する。
- (3) 一都3県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）を最重点エリアに指定して、校内ガイダンス、会場ガイダンスに参加及び高校訪問を行う。

主な活動は次のとおりです。

(年度別実施状況)

区分 / 年度	2022	2023	2024
OC実施回数	41	45	37
校内ガイダンス参加回数	348	346	383
会場ガイダンス参加回数	35	21	37

14. 卒業後の進路（専門課程）について

区 分	人 員	占有率 (%)
美容室・サロン	284	72.1
アイデザイナー	38	9.6
ネイリスト	12	3.0
ブライダル	6	1.5
化粧品（美容部員）	4	1.0
エステ	0	0
進学・留学	7	1.8
上記以外の進路	43	10.9
計	394	100.0

(1) キャリアサポートについて

キャリアサポートセンター室に専従の職員（3名）を配置して、担当の教員と緊密な連携を図り、学生の要望を踏まえた企業の開拓及び企業等の情報収集に努めるとともに学生の個別相談を行った。

(2) 合同サロン説明会の開催

キャリアサポートセンターが企画運営して、地域密着の美容室・サロン及び都心を中心に展開する美容室・サロン等幅広く招聘して合同サロン説明会を含め、各種の企業説明会を開催した（令和6年度参加企業79社）

15. 奨学金の採用について

奨学金の対応は、教務学生課が窓口となって申請、手続き等を行った。

日本学生支援機構に係る奨学金採用学生については、次のとおりです。

(単位：件)

学年/区分	第一種	第二種	給付型	計
1 年	8 1	9 1	6 5	2 3 7
2 年	3 6	7 8	4 6	1 6 0
計	1 1 7	1 6 9	1 1 1	3 9 7

1 6. 地域貢献・地域連携活動の推進について

美容に関するイベントやボランティア活動を行い、社会貢献を実践することで、美容の魅力を発信するとともに学生が集団活動を通じて自主性、社会性を身に付け豊かな人間性を育成することを目的に、渋谷区地域包括支援センターと連携して近隣住民を対象として学生の課外活動として「美齡クラブ」が中心となり「山野ビューティカフェ」を開催した。

(実施状況)

回数	期日	実施内容	参加者（人）		
			地域住民	学生等	計
1	R6. 5. 18（土）	ネイル、ハンドマッサージ、おしゃべりコーナー、他	1 6	1 4	3 0
2	R6. 7. 20（土）		2 3	2 1	4 4
3	R6. 9. 14（土）		3 1	5	3 6
4	R6. 11. 23（土）		2 1	5	2 6
5	R7. 1. 11（土）		3 4	1 1	4 5
6	R7. 3. 1（土）		3 7	8	4 5
計			1 6 2	6 4	2 2 6

1 7. 施設設備の充実について

- (1) 構内監視カメラの新設 1 3 台
- (2) 視聴覚器材の換装 4 0 3 4 0 4 教室

1 8. 防災訓練の実施について

大規模地震等、緊急事態発生時に備えた避難訓練を定期的を実施して、防災危機管理意識の醸成を図った。

実施日 第1回目 令和6年 5月31日
第2回目 令和6年11月22日

《山野日本語学校》

1. 学校の概要

(1) 設置コース

コース名	入学時期	定員
大学進学準備教育 1 年コース	4 月	200 名
大学進学準備教育 1 年半コース	10 月	160 名

(2) 教職員数

	専任	増減	非常勤	増減
教員	8 人	0	31 人	-12 人
職員	4 人	0	1 人	0

(3) 生徒数（下段は昨年）

コース名	生徒数	定員充足率
大学進学準備教育 1 年コース	166 人（193 人）	83%
大学進学準備教育 1 年半コース	225 人（231 人）	140%
合 計	391 人（424 人）	108%

注：（ ）内は前年度人数

(4) 生徒数（地域別人数）

中国	294	ベトナム	19	ウズベキスタン	20
カンボジア	4	フィリピン	2	韓国	3
アメリカ	1	台湾	1	ミャンマー	9
モンゴル	4	カナダ	1	ネパール	23
マレーシア	2	ナイジェリア	7	イラン	1

2. 事業の概要

山野日本語学校はわが国の大学、専門学校へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う、大学進学準備教育 1 年コース及び大学進学準備教育 1 年半コース設置している。

(1) 日本語能力試験状況（7 月、12 月平均）

N1	45% (28%)
N2	58% (30%)
N3	38% (35.5%)

注：（ ）内は 7 月、12 月の全国平均

(2) 進学状況

大学院	大学	短期	専修学校
25 人 (41)	31 人 (41)	0 (1)	49 人 (56)

注：() 内は前年度人数

(3) 進学先

【大学院】

一橋大学、横浜国立大学、名古屋大学、東京外国語大学、埼玉大学、神戸大学、鹿児島大学、長崎大学、早稲田大学、日本大学、法政大学、中央大学、国土館大学、専修大学、東洋大学、拓殖大学、多摩大学、目白大学、昭和音楽大学、東京福祉大学、文星芸術大学

【大学】

慶応義塾大学、日本大学、千葉工業大学、立教大学、国土館大学、東洋大学、拓殖大学、帝京大学、桜美林大学、麗澤大学、共立女子大学、淑徳大学、聖学院大学、日経経済大学、東京造形大学、東京工芸大学、昭和音楽大学、中央学院大学、流通経済大学、東京福祉大学、文教大学、平安女学院大学、京都精華大学、京都芸術大学、開智国際大学、鈴鹿大学、テンプル大学、深圳大学

総括

- (1) 定員 360 名に対して、学生募集目標は達成している。
- (2) 日本語教育機関の競争力の要として日本語教育能力の向上を掲げ、「日本語能力試験 N2 合格率 50% を目指すプログラム」の 5 年目として、N2 の目標は達成し、N1 と N3 とともに全国平均を大幅に上回っている。
- (3) 日本語教育機関の在籍数が増える中で、今年度は専門学校を含む進学競争が激しくなり、それを反映して大学・大学院進学者数は昨年度を下回っている。その反面、1 年コースを卒業後、進学のために再入学する学生は 60 名（昨年度 40 名）に達し、この部分の学生には募集コストが掛からないため、学校の収益構造には大きなメリットがある。

Ⅲ. その他

1. 学校法人の管理運営における改革について

令和 5 年 4 月 28 日に公表した、不適切支出問題についてのご報告（最終報告）に示した事項について、責任の所在と処分については、最終報告に記載のとおり実行し、損害賠償金については、調停に代わる決定に基づき返還を受けている。

その上で、学校法人の模範となれるようなガバナンス体制を構築し、高いコンプライア

ンス意識を保持して学校法人の経営と運営を行うべく「再発防止策としての当学苑の改革」として改革を進め、令和5年度中に体制・仕組みを整備した。令和6年度にあつてはこの体制を維持継続し、制度の徹底と厳格な運営に努めた。

このガバナンス強化の一環から、代々木に所在する山野ホール等の学苑施設の貸出体制について確認を行っていたところ、B3 階のホールについて、学校のイベントで使用することは法令上の問題はないが、貸ホールとして一般公衆に貸し出すことは法令上の問題がある可能性があることが判明した。

このことから、令和6年12月より、代々木学苑施設の外部への貸出を一切中止し、関係官署と相談及び協議等を進めた結果、山野ホール等は第2種住居地域に所在することから、建築基準法上、劇場等の用途で使用できないことができないことが確認された。

このことを踏まえ、今後は法令遵守を徹底し、代々木学苑施設については、イベント、コンサートなどチケットを販売し不特定多数の来場者を入場させる等の貸出は一切行わないこととし、学内利用や本校の教育研究活動に関連する資格試験や研究会のほか、公共団体が行う社会貢献に資する行事等で理事会の承認を受けた行事に限定して使用することを定めた。

また、内部統制の充実・強化については、令和7年4月より施行される、私立学校法の改正に合わせ、内部統制システムの基本方針を策定し、基本方針に基づく内部統制システムの整備を行った。

本学苑にあつては、前述の改革を進めてきたことから、令和5年5月からコンプライアンス委員会を設置しており、体制整備としては進んでいた状況であるといえる。

コンプライアンス委員会は、理事会の直轄組織とし、学苑全体のコンプライアンス上の様々な事項について、継続的に確認、検討、モニタリング及び助言を行っており、各部門における日常業務や事業活動等における内部統制や関係法令の遵守等について確認し、必要に応じた指導助言等を行っている。また、コンプライアンス委員は理事会及び評議員会にオブザーバーとして出席し、議事内容が正確に議事録に反映されているかの確認を行い、定期的に理事会・評議員会の議事録ファイルを確認し、開催実績と議事録の照合を行っている。今後、本体制を維持しつつ、内部統制システムを強化するため、組織体制の見直しを検討していくこととしている。

また、山野愛子ジェーン学苑長は、令和7年3月31日付けをもって 理事・理事長を退任し、学苑の教学に専念していくこととなった。次期理事長が選任されるまでの間、理事会から理事長職務代行に指名された木村康一理事が、理事長の職務を遂行している。

2. 認証評価について

本学苑は、令和5年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会の認証評価を受け、令和6年3月8日付で不適格の評価を受けた。

同協会より通知された、早急に改善を要すると判断された事項は、以下のとおりである。

①学生に対する懲戒（退学、停学及び訓告の処分）の手続きに関する規程を定めていない。

- ②理事及び評議員が寄附行為に定められた定数を満たしていない。
- ③理事会及び評議員会の議事録に会議で使用した資料が添付されていない。
- ④理事会及び評議員会に付議された事項について書面をもってあらかじめ意思表示した者の意思表示書が保存されていない会が複数回ある。
- ⑤実際に開催していない理事会及び評議員会の議事録がある。
- ⑥学校法人資産の私的利用、上記の実際に開催していない理事会及び評議員会の議事録による寄附行為変更認可申請を行うなど法人の内部統制の体制及びガバナンス機能に大きな問題がある。

これら早急に改善を要すると指摘された事項については、不適切支出等の問題の再発防止策において、全項目について改善策は既に取りられている状況ではあるものの、認証評価の再評価にあつては、細部において慎重な対応とすべく令和 6 年度に再評価を受けることは見送った。

3. 山野美容芸術短期大学の設置者変更

設置者変更については、本件事業の譲渡日において、本件事業譲渡が実行できなかったことから、誠実に協議した結果、中止することに両者合意し、解約することとなった。

4. 財務状況の改善について

理事会において、財務の現状の正確な把握と、課題を抽出し、今後の対応方針を検討するためデューデリジェンスを行い、令和 6 年 12 月 18 日の理事会において経営改善計画を纏め、令和 9 年度には教育活動資金収支をプラスとし、経営判断指標の「B0」とすることを近々の目標とした。

経営改善計画においては、業務見直しと経費削減の取り組みを進めることと併せ、山野美容芸術短期大学及び山野美容専門学校での学生数の確保、並びに学苑全体のガバナンス体制の強化がこの経営改善計画期間における重点事項としている。山野美容芸術短期大学及び山野美容専門学校にて経営改善計画期間内に学費の値上げを予定している。そのような状況下において学生数を確保するため、コースやカリキュラムの見直しを含めた学苑における教育のブランド化を図り本学の魅力を向上するとともに、広報戦略の積極的な展開や奨学金制度の充実を図ることとし、制度の見直し等を行った。

財務状況の改善施策として、令和6年度は千駄ヶ谷にある山野日本語学校を代々木の空き教室（7・8階）に校舎移転した。引き続き次期中期計画において、既存施設の有効活用として、MYタワーをはじめとする施設事業の収益改善及び、MYタワーの維持管理にかかるコスト改善を図る計画を進めていく。

千駄ヶ谷の日本語学校校舎跡地を含む遊休資産については、令和7年内を目途として売却等進める方針とし、手続きを進めている。